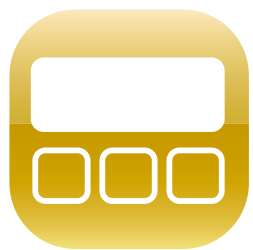


OSの違いを意識しないアプリケーション開発を。

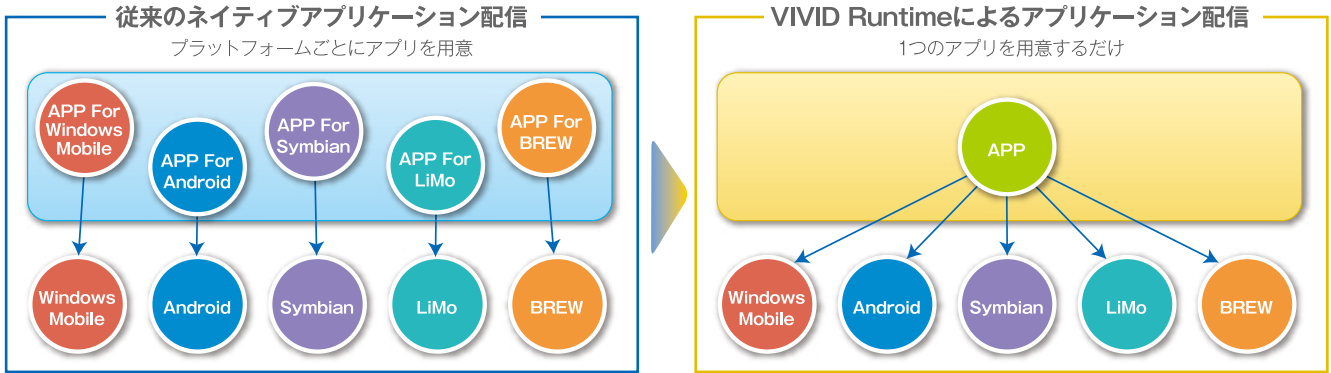
「VIVID Runtime[®]」は、1つのネイティブコードを異なるOS上で実行させるミドルウェアソリューションです。「VIVID Runtime」を搭載することで、各OS間の差異を取り払い、複数OS向けのソフトウェア開発とビジネス展開を可能とします。



VIVID
Runtime[®]

 ACRODEA

1つのネイティブコードが様々なOS上で動作することを目指した「VIVID Runtime」。このソリューションによりソフトウェアポータビリティを向上させ、アプリケーションソフトのマルチOS展開をより低コストに、より確実に行えるようになります。「VIVID Runtime」ではアプリケーション開発言語としてC/C++をフルサポートし、業界標準のメディア系APIであるOpenKODE、OpenGL ES、OpenGL ES等に対応。また、ミドルウェアカスタマイズによって独自の拡張API追加にも対応します。

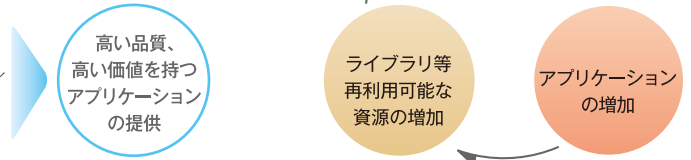


通信事業者・機器メーカーへ魅力的なプラットフォームを提供

「VIVID Runtime」は搭載対象端末のOS間差異を吸収します。そのため、様々な端末を手掛ける通信事業者・携帯機器メーカーの悩みの種だった、OSごとのソフトウェア作り分けとメンテナンスがほとんど存在しません。「VIVID Runtime」によって開発・実行環境を統一することにより、限られた開発コストの有効利用も可能となります。また、アプリケーション開発者にとっては、搭載対象端末の裾野を一気に広げるため、アプリケーション開発に対するモチベーションを高めます。その結果、個人・法人を問わず、多くの開発者を集めることができ、高品質で魅力的なアプリケーションを生み出すプラットフォームを実現できます。

アプリケーション開発のメリット

- 1バイナリのため、複数OS間対応時の開発・テスト工数が削減されます
- ボーディングが不要となり、他のデベロッパーが作成した信頼性の高いライブラリを活用できます
- 各アプリケーションから利用できるシェアードライブラリに対応します

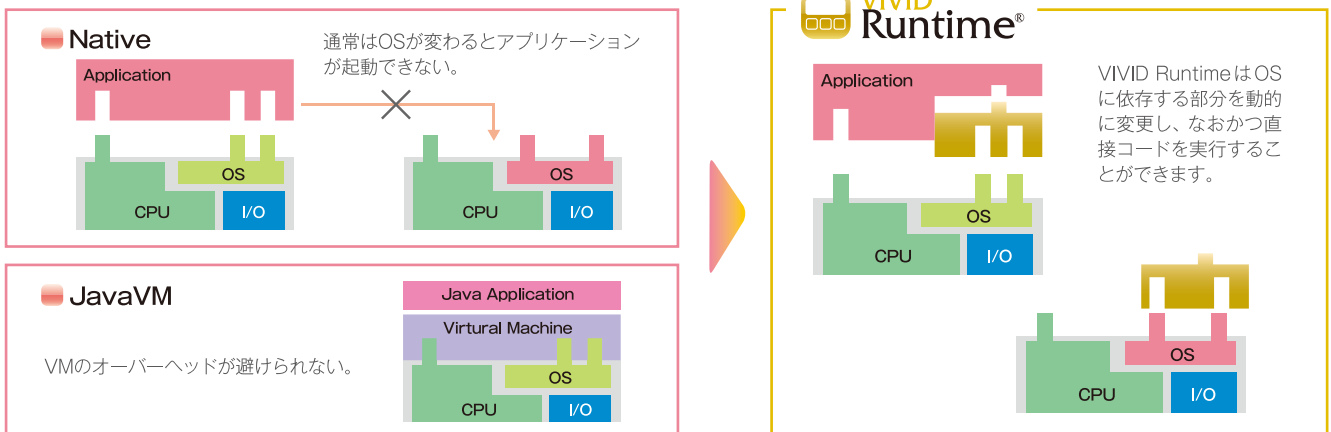


実機環境に依存しない開発プロセス

VIVID RuntimeのアプリケーションはMicrosoft Visual Studio、またはオープンソースの開発環境であるEclipseと「VIVID Runtime SDK」を使って開発します。PC上でも「VIVID Runtime SDK」により提供されるCPUエミュレータを利用することにより、端末実機用と同じバイナリによる動作確認、デバッグが行えます。実機にソフトを転送し、専用のデバッガでテストを重ねるのではなく、最小限の手間で最大限の効果を上げられる開発環境です。

VIVID Runtimeのしくみ

VIVID Runtimeは、アプリケーションコードの中でOSに依存する部分を実行開始時に解決し、オーバーヘッドなしに直接コードを実行できます。



※ 「VIVIDRuntime」はアクロディアの登録商標です。
※ その他、記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。